

★最近の活動

～里山の保全や自然案内人としてどんなことをしているのか?その一部をお伝えします～

☆公園での活動から

♪今年も田んぼが始まった!今年は親子(幼児とその親)のグループ、総合学習で来る小学5年生、やはり授業の一環で来る養護学校(高校)の生徒たち、という3つのグループの人たちとやっている。今日は親子グループと「どろんこ代かき」だった。最初は親の手を離さなかった子どもたちも、かけっこをすともう、どろどろのぐちゅぐちゅ。最後にきちんと丸太でならすのも、もっとやりたい!の合唱でした。私の反省は、田んぼに現れたシマヘビをつかんだところ、かなりヘビをおこらせてしまったこと(鎌首もたげてにらまれてかみつかれそうになった。ヘビは怒るとあんなのかと実感)。シマヘビさん、ごめんなさい(ちなみにシマヘビに毒はない)。

♪ビオトープ作りに挑戦中。3月下旬、公園の中に新たなビオトープを作ることに着手。もともとある池の岸边に湿地を創出し、鳥や昆虫などの棲み処や隠れ場所になるようにするのがねらい。昨年取得した「ビオトープ管理士」の資格を活かすぞ!と意気込んでいるが、机上の学習と実践を行き来することはとても面白い。

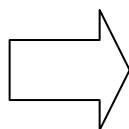
♪高校生と600本植林!4月半ば、5回に分けて約600本を植林した。植林した場所はもともとは畑だったのか?と思うような段々のついた場所で、回りは雑木が生えているのに、その部分だけがネザサやクズに覆われていたのだ。樹種はオオシマザクラ・モミジ・コナラ・クヌギ・イヌシデの5種。これらはもともとこのあたりに普通に生えている落葉樹だ。高校生はきゃあきゃあ言ったり、ちょっとかったるような感じの中にも真面目に植えていた。みんなが一人前の社会人になる頃にはどれくらい大きくなっているだろう。時々見に来てくれるといいな。そして、感謝。これだけの木を植えようと思ったらスタッフだけではとても大変です。もちろん、田んぼやそのほかの保全作業も同じ。授業やボランティアで来る大勢の人たちに支えられている、そんな意味でも貴重な自然だと思う。

♪ホテルの定点観察始まる。今年も5月中旬から7月中旬まで、ゲンジボタルとヘイケボタルの出現状況の定点観察をしている。今年桜は早く咲いたが、その後が寒かったので、私の予想では出現は遅いのではないかと思うが、早い、という予想もあり、楽しみ。ただ、生息地の1つの谷戸に都市計画道路の建設が入り、ここでの生息がどうであるかが今年大きなポイントだ。

ビオトープに植えたショウブ



植栽直後(3月下旬)



約1ヶ月後



こんなに大きくなりました♪

★自己研修やその他いろいろ

～実務の経験を積むと同時に、自己の能力向上を図ることや感性への刺激は欠かせない～

♪**だれでもフラメンコ**で初めてフラメンコを踊った。講師の M さんの話が示唆に富む。「コンパス」「つながり、流れ」や手拍子1つとっても、ただ1・2・3と機械的に打つのではなく、寄せては返す波のようにつながっていく気持ちが大事など。「目を閉じると自由になる」という考えも面白いと思った。

♪**岡本太郎にシンクロ**。フラメンコの M さんのブログにも岡本太郎の本の話が書いてあり、ちょうど私の夫も岡本太郎記念館（南青山）に行つて感銘を受けたという話も聞いていたので、私の中で岡本太郎に対する興味ががぜん沸く。現在『自分の中に毒をもて』を読んでいる。歯切れのよい文章に自由な心が波打つ感じだ。なぜ人は肩書きの中に人を押し込めようとするのか…。共感する。

♪大学時代の恩師に教えてもらった**「水のいのち」という合唱曲**。たまたま入った K 書店に CD があったので買った。水の一生を歌い、自然と人生をそれに照らす美しい詩を書いた高野喜久雄氏だが、なんとその CD を買った日の夕刊に訃報が載る…。

♪**大地の気を受ける**: 毎月通っている「日本伝承医学」の公開講座にて。人はあまり高い所に暮らさない方が良いらしい。なぜなら、大地＝地球が発する磁場（磁気）というものが人間に良い影響を与えるから。時には大地に寝転びそのエネルギーを感じたいものだと思う。

★自然観察日記

テントウムシ

大事な梅盆栽にアブラムシがどっさりついてしまった！本当にあつという間に増える。2回ほど手で駆除したり、ダメな枝先を切ったりしたが、どんどん増える。そこで、アブラムシを食べるテントウムシを近所で捕まえてきて放してみた（成虫2・幼虫5 / 5月1日）。その成虫の1匹がなんと卵をたくさん産んでいったのだ（約100個）が、その卵が順調に孵化し幼虫になった。最初はなんだかアブラムシもなかなか減らないし、幼虫の動きも鈍いし、もっと食べてよ！とやきもきしていたのだが、5月19日、突然アブラムシがほとんどいなくなり、幼虫も大小様々で活発にチョロチョロと動き回っている！そして今日、鉢の外まで出てきてしまったので（我が家はベランダなので、お隣に行って気味悪がらせてもマズイ）、外に放すことにした。アブラムシはほぼゼロ。エサがなくなって幼虫たちもあわてていたのだろう。約3週間で目標は達成された！その間に、テントウムシの一生をじっくり観

孵化の瞬間

アブラムシを食べる幼虫



察できた。ガブリとアブラムシを食べるのを初めて見た時、孵化の瞬間、さなぎが成虫になった時などは興奮のルツボだった。外に放す段になって、今度は皮肉にもアブラムシを探し回った。やはりどちらか片方が欠けても生きていけな

いんだよな～バランスは崩れるんだよな～と生態系の多様性についても考えさせられる出来事だった。

早川広美…ちょっと紹介…

横浜市の里山を生かした公園でのスタッフとして自然の保護・保全やイベントの運営に喜びを見出す。一方、フリーの立場ではネイチャーゲームや自然観察などを取り入れた自然体験の場を提供する自然案内人。この「たより」で自然のことや私の仕事、活動のことなどについて発信していきたいと思います。横浜市戸塚区在住、1963年6月生まれ。仕事の依頼や相談はこちらまでお気軽に→メール：hiromi-h@river.dti.ne.jp

